

## 車座の会：21世紀、デザイン教育の文脈、創験、展望

2007年6月2日(土)、慶應義塾大学理工学部矢上キャンパスを会場として、「車座の会：21世紀、デザイン教育の文脈、創験、展望」が開催されました。本活動におきましては、はじめに、松岡がデザイン対象や教育の多様性にもとづく文脈や、創発デザインと最適デザインにもとづく創験に関する講演を行いました。つぎに、ご参加いただきましたデザインに関わる実務者、教育者の方々から、ご提出いただきました意見書の内容にもとづきまして、デザイン教育に対する様々な意見を述べていただきました。この、意見提示の場では、デザインに関わる実務者（エンジニアスジャパン・小島デザイン・銭高組・田尾設計・東芝・トヨタ・トライフォーム・ノーバス・日産・朋栄・松下電工・マツダ・FDL・QLC）、教育者（カーネギーメロン大・慶應大・多摩美大・千葉工大・筑波大・東京芸大・東京純心女子大・武蔵野美大・山口大・和光大・）、および学生を含む約40名の方々と交えたディスカッションも適宜行われ、終了時刻を大幅に延長するほどの熱い議論が交わされました。本車座の会におきましては、「多様性」を主なキーワードとした様々な意見が提示されました。今後は、デザイン教育における共通部や、斬新さのみならず完成度を高めるための造形基礎教育の在り方などに対する議論を進めていくことが望まれます。貴重なご意見を賜りました参加者の皆様に、この場をかりまして厚く御礼申し上げます。



ディスカッションの様子



会場の様子